

NAMAE Akira

生江 明 ナマエ アキラ

教授

政治学修士（早稲田大学）

早稲田大学政治経済学部卒業(1972)，早稲田大学大学院政治学研究科(1978)，「ナマエ オリジナルスタジオ」(1971～1987)，開発コンサルタント(1987～1989)，シャプラニール／市民による海外協力の会(1989～1991)，社会開発国際調査研究センター代表(1991～)，都立大学非常勤講師(1993～1994)，法政大学兼任講師(1993～)，日本福祉大学赴任(1997)，東京大学大学院医学系研究科客員研究員(2002～2006)，早稲田大学政経学部非常勤講師(2006～)，日本福祉大学教職課程センター運営委員(2004～2006，2008～)，早稲田大学文化構想学部非常勤講師(2008～)，紀要「現代と文化」編集委員(2008～)，紀要「経済論集」編集委員(2009～)。

【研究分野】

政治学.

【キーワード】

ジェンダーと開発，生計向上，貧困，地域社会，社会開発，地方自治・地方制度，NPO・NGO，平和，コンフリクト，公共性.

【担当授業科目】

学 部：専門演習，平和学，政治学，地域社会論。
通信教育部：コミュニティマネジメント。

【主な研究テーマ】

1. 地域社会公益としての社会開発

地域社会公益の形成と明確化を手法とする社会開発の在り方の研究を日本を含む東アジア，東南アジア，南アジアをフィールドとして，特に開発援助協力の現場において行っている。地域社会を起点として，公共性の社会技術移転としてODAを捉え，その一方で，地域社会ないしは広く社会の在り方をそこに暮らし続ける人々の具体的で長期的な立場の支援者としてNGOを捉え，両方のフィールドの在り方の調査研究をしています。

2. ジェンダー

社会構造分析と負荷配分としての社会的公正：社会を平板に捉えるのではなく，その構造やメカニズムを捉えるアプローチとしてジェンダー／社会分析という社会インパクト分析手法を重視し，そこから負荷限界に基づいた利益限界という両者の負荷配分／利益配分連動のありようの中に，社会の権力関係／自然と社会の関係，さらには公益規範の成立などを捉えようとしています。それが長期的なタイムスパンの中で明らかにされるプロジェクト評価の基礎であり，住民主体のプロジェクト評価の立場と考えるからです。

以上が，開発における地域主体形成の条件と制度に関するパラダイム理論形成を目指す私の研究課題です。

【主な研究業績】

<著書>

- 『平和・人権・NGO』，共著，新評論，2004.03.
- 『住民参加型開発フロンタライン』，共著，国際協力出版会，2003.
- 『コミュニティマネジメント』，共著，pp.293，日本福祉大学通信教育部，2002.04.
- 『学び・未来・NGO-NGOに携わるとは何か』総頁344p，共著，「(終章)人々の誇りと力の発見—21世紀のNGOが切り開く新たなパラダイム」pp.13，新評論，2001.04.
- 『開発学概論』（日本福祉大学通信教育部テキスト）総頁283p，共著，pp.7，日本福祉大学，2001.03.
- 「市場経済移行期におけるインセンティブ構造変化による中国貧困農村の生態環境破壊メカニズム」および「地域固有社会システムがメカニズムに与える影響に関する研究」，共著，(財)国際開発高等研究機構，2000.04.
- 『ケニア国ケニア山麓灌漑園芸農業開発調査報告書』，共著，JICA，1999.06.

- 『中国農業・農村再生強化事業調査報告書』，共著，国際開発センター，1999.03.
- 『インドネシア南スラウェシ州村落開発プロジェクトと連携した地域社会開発手法の研究』，共著，pp.33-54，JICA，1998.04.

<論文>

- 「遊牧型生活様式の歴史社会的変化に伴う“生計構造の貧困化”メカニズム—ケニア遊牧民地域の開発調査から—」，『日本福祉大学研究紀要 現代と文化』第119号，単著，日本福祉大学福祉社会開発研究所，2009.03，pp.1-29.
- 「グループ・ワーク型教育論—知識と価値の主體的自己編集の“場”としての大学教育論のために—あるいは—インセンティブを形成する授業型空間のデザインのために—」，『日本福祉大学研究紀要 現代と文化』第118号，単著，日本福祉大学福祉社会開発研究所，2008.12，pp.77-95.
- 「乾燥・半乾燥地域論（下）—周辺から捉える近代化の意味あるいは近代化と環境論」，『日本福祉大学研究紀要 現代と文化』第103号，単著，日本福祉大学福祉社会開発研究所，2000.08，pp.49-64.
- 「乾燥・半乾燥地域論（上）—周辺から捕らえる近代化の意味あるいは近代化と環境論—」，『日本福祉大学研究紀要 現代と文化』第102号，単著，日本福祉大学福祉社会開発研究所，2000.03，pp.93-109.
- 「マイクロクレジットと住民参加型開発 Case Study—バングラデシュ・グラミン銀行の事例から—」，『文部省国際科研報告書』，単著，2000.03，pp.15.
- <研究ノート>「開発と女性」，『ライフメッセージ 開発と女性』特集号，単著，名古屋市民局市民文化部女性企画室，1998.09.

<学会発表>

- 国際環境影響評価学会第5回年次総会，2001.05.

【所属学会】

国際開発学会(1991～)，日本行政学会(1995～)，国際環境影響評価学会(1996～)。

【社会における活動と仕事】

日本福祉大学社会福祉学会 全国運営委員(2004～)，日本福祉大学生活共同組合 理事長(2005～)，日本福祉大学社会福祉学会 運営副委員長(2008～)。